

「あり方・生き方」を 考える

——主体的な進路選択のために——

予測困難で変化の激しいこの社会を、生徒はどのようにして生きていけばよいのだろうか。

新学習指導要領に関する中央教育審議会の答申(*)に、次のような一節がある。

「予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが重要である」

進路選択においても、自分の人生に主体的に向き合うことが今後一層求められるが、そこで鍵となるのが、新学習指導要領の総則等にも示されている、自己の「あり方・生き方」を考えることだ。

今号では、どのような教育活動が、生徒が自身の「あり方・生き方」を考えることにつながるのか、そして、それらを考えることで、生徒にどのような変容がもたらされるのかを、実践事例や識者へのインタビューを通じて、ひも解いていく。

を考えることで 生徒の変容



「どう生きたいのか」を考えて、実践するのは難しいことですが、それができるようになると、その人自身も生きるのが楽になり、幸福になります。

慶應義塾大学大学院 教授 前野隆司

P. 16-19

「あり方・生き方」を 考えることにつながる 2校の実践



生徒の希望を聞きながら、「どう生きていきたいのか」といった人生観を語らせ、具体的な進路に結びつけていきます。

愛知県立東海商業高校

P. 12-15



他者との協働や自己の内省があるからこそ、他者のことまでもよく考えて、自分の生き方を選べる人になれるのだと思います。

東京都・私立品川女子学院中等部・高等部

P. 8-11

* 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

新学習指導要領に示される 「あり方・生き方」を**考える必要性**

第1章 総則 第5款 1(3)

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、**生徒が自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。**

出典／文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」

*文章中の太字・網かけは編集部によるもの。

第3章 第2節 目標の趣旨 1(3)

自己の在り方生き方を考えることについては、次の三つの角度から考えることができる。一つは、人や社会、自然との関わりにおいて、自らの生活や行動について考えて、社会や自然の一員として、人間として何をすべきか、どのようにすべきかなどを考えることである。二つは、自分にとっての学ぶことの意味や価値を考えることである。取り組んだ学習活動を通して、自分の考えや意見を深めることであり、また、学習の有用感を味わうなどして学ぶことの意味を自覚することである。そして、これら二つを生かしながら、**学んだことを現在及び将来の自己の在り方生き方につなげて考える**ことが三つ目である。学習の成果から達成感や自信をもち、自分のよさや可能性に気付く、人間としての在り方を基底に、自分の人生や将来、職業について見通し、どのように在るべきかを定めていくことである。

出典／文部科学省「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編」

*文章中の太字・網かけは編集部によるもの。

生徒が「あり方・生き方」を 考えるための手立て



自分のあり方や生き方を考え、それらを深めるのは、様々な経験の中で得た気づきや疑問、不安などを他者と共有する中においてではないでしょうか。

東京大学大学院 教授 ^{かじたに}梶谷真司

P.26-27

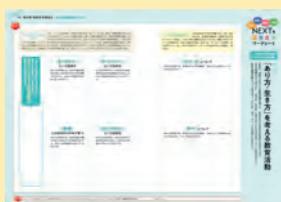
「あり方・生き方」 もたらされる



地域で活躍する人たちの話を聞き、情熱に触れる中で、「将来こんなことをしたい」という思いが、自分の中からたくさん出てくるようになりました。

岩手県立高田高校 ^{たかた}

P.20-24



生徒の・教師の・自校の・社会の
NEXTを語り合うワークシート

今号の特集のテーマを校内の教師同士で深めるツールとして、ご活用ください

P.28-29



このマークのある図版は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け」をご覧ください。